年表 越前と明智光秀

弘治 2(1556) 美濃から越前に逃れてきたという。＊⓪

永禄 1(1558) この頃から10年間、称念寺門前に暮らす。

永禄 5(1562) 加賀一向一揆と朝倉勢の戦いで「気」を察知したという。＊①

永禄 8(1565) 山代温泉へ湯治に向かう途中、汐越の松を詠んだという。＊②

永禄 9(1566) 高島田中城の籠城時に足利義昭側近に「セキソ散」等の口伝を授ける。

永禄11(1568) 一乗谷で元服した義昭の足軽衆となる。

永禄12(1569) 足利義昭と織田信長の両方に仕えるようになる。

元亀 1(1570) 信長の越前朝倉攻め(金ヶ崎の戦い)、姉川の戦いに従軍する。

天正 1(1573) 朝倉・浅井滅亡。越前の戦後処理に関わる。

天正 3(1575) 丹波(京都府)入国を命じられる。四王天政孝・政実が与力となる。＊④
信長の越前一向一揆攻めに出陣、府中で一揆勢約2000を殺戮する。

天正 7(1579) 丹波を平定する。

天正10(1582) 本能寺で信長を討つ。四王天政実、森蘭丸を討ったという。＊④
山崎の戦いに敗れ、その後死去す。

―光秀没後のできごと―

慶長 4(1599) 青木秀以(重吉)に召し出された四王天政実、越前に来る。＊④

慶長 6(1601) 四王天政実、結城秀康に召し出される。＊④

貞享 2(1685) 地誌『越前地理指南』の大味村の箇所に中島但馬守屋敷跡のみ載る。＊③

元禄 4(1691) 俳諧集『俳諧勧進牒』に芭蕉「月さびよ明智が妻の咄せむ」が載る。＊①

元禄 6(1693) 軍記物語『明智軍記』が刊行される。＊⓪

享保 5(1720) 地誌『城跡考』に東大味村の明智日向守屋敷跡が載る。＊③

享保 6(1721) 由緒書集成『諸士先祖之記』に四王天政実が森蘭丸を討ったと載る。＊④

天明 2(1782) 地誌『越藩拾遺録』に光秀が詠んだとする汐越の松の和歌が載る。＊②

寛政 9(1797) 読本『絵本太閤記』の刊行が始まる。＊①④

文化 1(1804) 地誌『古今類聚越前国誌』に長崎(称念寺)と妻の話が載る。＊①

慶応 3(1867) 浮世絵「太平記英雄伝」シリーズの「四王天又兵衛」が刊行される。＊④

明治19(1886) 足羽郡東大味村に明智神社が創建される。＊③

昭和30(1955) 福井市舟橋町に四王天但馬守事蹟碑が建立される。＊④

○数字は展示資料の番号に対応